

# 小学校外国語教育に ESD の視点を取り入れる工夫

## —— 英語絵本の活用 ——

伊 勢 恵

(受付：2022 年 8 月 20 日，受理：2022 年 12 月 20 日)

要旨：本論は、子どもの心に働きかけ共感する力を育てる、身近で大切な問題を考えるきっかけとなるといった文学作品としての絵本の持つ利点に着目し、小学校外国語教育に ESD の視点を取り入れるための教材として英語絵本の活用を提案することを目的とする。まず、ESD において重視すべき 7 つの能力・態度（国立教育政策研究所，2012）に通じる教育的テーマを持つ絵本を各 1 冊ずつ選定し、選定した絵本が小学生児童に相応しい英語レベルであるかを検討するために、Word Level Checker (Someya, 2006) を用いて語彙数と語彙レベルを調べた。その結果、読み聞かせの際に英語の調整が必要なものが含まれているが、概ね指導可能な範囲であることが確認できた。その上で、各絵本の活用例と関連する学習単元例を提案する。複雑化する現代社会における英語教育には、表層的な英語力の獲得のみならず、グローバル・シティズンシップや「生きる力」の育成にも資することが求められ、言語学習教材としてだけでなく社会性や情緒性を育むための教材としても英語絵本を活用する可能性は広がるものと考えられる。

キーワード：ESD, SDGs, 小学校外国語教育, 英語絵本, 教科学習

### 1. はじめに

外国語教育における英語絵本の活用には、第二言語習得に沿った学びができる教材としての利点と、情緒性や社会性を育む文学作品としての利点がある。言語教材としての絵本は、言葉と絵が一体となってストーリーを伝えるため、絵が内容理解のヒントとなり、自然と子どもに分かりやすいインプットを与えることができる（松本，2017）。また、やり取りをしながらの読み聞かせや内容に関連する発展活動につなげれば、言語習得に必要なインタラクションやアウトプットの機会を作り出すことも可能である。さらに、言語の発達には「意味のある文脈（meaningful context）」の中で言葉と接することが必要とされ（アレン玉井，2018）、言語学習のために意図的に作成されたテキストではなく、メッセージを伝えることをねらいとして作成された絵本は、生きた文脈の中で言語を提供することができる点でも優れている。

一方、文学作品としての絵本は、少ない言葉や絵で人生や命、生きること、喜びや感動を表現できる卓越した表現手段、コミュニケーション手段であり、絵本を通して子どもたちの気持ちを動かすことができるという（河合・松井・柳田，2021）。スプレnger（2022）は、自然に登場人物や状況を理解しようとしたら、視点を変えて別の登場人物の立場から物語を考えたりしながら

ら文学作品を読むことは、他者とのつながりを感じ、共感する力が鍛えられると述べている。他にも、「想像力を伸ばす」「読み聞かせを通してクラス共通の反応を引き起こし、自信を高め、社会的・情緒的発達に寄与する」「大切に身近な問題について考えるきっかけとなる」といった意義もあり（エリス & ブルースター，2008）、文学作品としても絵本の教育的価値は高い。

また、良い絵本には教育的テーマがあるという（スミス，2016）。そこで本論では、持続可能な社会の作り手を育む教育（ESD）において重視すべき能力や態度をテーマに持つ英語絵本を選定し、語彙数と語彙レベルを確認する。加えて、活用例と関連する学習単元例を提案し、小学校外国語教育にESDの視点を取り入れるための教材として英語絵本活用の可能性について考察する。

## 2. 研究の背景

### 2.1 SDGs と ESD

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された、世界中のすべての人々にとってより良い、持続可能な未来を築くための国際目標である。貧困や不平等、気候変動、環境問題、紛争など地球規模の様々な課題を解決するための17の目標と169のターゲットで構成され、2030年までの達成を目指す。各目標はそれぞれ異なる課題に対して設定されているが、基本理念である「誰一人取り残さない」世界の実現に向かって相互に関連し合っている包括的なものであり、持続可能な社会の実現に向けて価値観や行動様式を「変容」(transformation)することが求められている（ユネスコ・アジア文化センター，2020）。

SDGsの達成を支えるためには教育が必要不可欠である。持続可能な社会の作り手を育む教育（ESD：Education for Sustainable Development）とは、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育のことである（日本ユネスコ国内委員会，2021）。2019年の国連総会ではESD for 2030（Education for Sustainable Development：Towards Achieving the SDGs）が承認され、SDGs全17の目標実現に貢献する教育としてESDのさらなる推進が求められることとなった。日本においても、2017、2018年に告示された幼稚園から高等学校までのすべての学習指導要領前文・総則において「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられており、学校教育の基盤となる主要な理念としてESDのビジョンが含まれている。また、全ての教科等の目標や学習内容は、実際の社会や社会の中で生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で再構成された。さらに、学びの在り方として、見通しを持って粘り強く取り組むことや、協働や対話を通じて自己の考えを広め深めること、各教科における学びを関連付けた深い理解、問題解決等、「主体的・対話的で深い学び」の実現が示された（文

表 1. 持続可能な社会づくりの構成概念及び ESD の能力・態度 (国立教育政策研究所, 2012)

持続可能な社会づくりの構成概念 (例)	ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度 (例)
① 多様性 (いろいろある)	① 批判的に考える力
② 相互性 (関わり合っている)	② 未来像を予測して計画を立てる力
③ 有限性 (限りがある)	③ 多面的・総合的に考える力
④ 公平性 (一人一人を大切に)	④ コミュニケーションを行う力
⑤ 連携性 (力を合わせて)	⑤ 他者と協力する態度
⑥ 責任性 (責任を持って)	⑥ つながりを尊重する態度
	⑦ 進んで参加する態度

部科学省, 2017a)。こうした資質・能力や学び方は、まさに SDGs 時代の教育として ESD の実践に関連するものである。

学校教育における SDGs を取り入れたカリキュラムや教科学習の実践報告も年々増えてきている。田中ら (2019) は、SDGs の取り入れ方として、総合学習や特設科目で「国際理解」や「SDGs」などの大単元や科目をつくり総合的に学ぶ「教科統合型」、SDGs の目標を各教科の中で学ぶ「教科融合型」、修学旅行や文化祭など学校行事・体験学習を通して学ぶ「教科超越型」の 3 つの分類を紹介している。また、ユネスコ・アジア文化センターが発刊した『変容につながる 16 のアプローチ』(2020) では、ホールスクールアプローチとして学校全体の教育活動に取り入れたり、日々の授業や活動に SDGs の視点を取り入れたり、教科横断的な学びの中で外部人材の活用と体験の積み重ねから育成する試みなど小学校での実践例も紹介されており、それぞれに工夫を凝らした取り組みが進んでいることが分かる。一方で、取り組みやすい領域やトピックのみに限定的に取り組む「ESD の断片化」(永田, 2021) に対する懸念や、SDGs の背後にある基本理念や原理も学習にもっと反映すべき(桑原他, 2021) といった指摘もある。国立教育政策研究所 (2012) は、持続可能な社会づくりの 6 つの構成概念例と ESD の視点に立った学習指導で重視する 7 つの能力・態度を示している (表 1)。SDGs の各目標に焦点を絞った知識・技能の一方的な育成にとどまらず、包括的・全人的な育成にも意識を向けることが望まれる。

## 2.2 英語絵本の選定と読み聞かせ

小学校外国語教育は 2020 年度より 3 年生から開始され、5, 6 年生に対しては「読むこと」「書くこと」の文字指導も含まれたことに伴い、英語絵本の活用が推奨されている。樋口ら (2019) は英語絵本を選ぶ際のポイントとして、① 内容が児童の発達段階や興味・関心に合い、主たる語彙や表現が児童の学習段階に合うもの、② 初期段階では繰り返し構造を持つもの、③ 1 ページあたりの語彙数が多すぎず、絵が分かりやすく意味理解のヒントになるもの、といった 3 点を挙げている。具体的な絵本の長さについては、中学年を対象とした場合には、6~8 分程度で読み聞かせられるもの、ページ数でいうと見開き 16 ページ程度 (松本, 2017)、高学年を対象とし

た場合には、一冊の総語彙数が約 490 語以内、異語数は約 155 語以内、文数は約 90 文以内、1 ページ以内の文数は約 3 文以内、1 文以内の語数は約 6 語以内（三宅・竹森・武田，2011）とする指標もあるが、内容面を考えて総合的に判断すべきとされている。

読み聞かせをする際の留意点としては、① ジェスチャーを多用したり、絵本に載っている文言をそのまま読むのではなく、別の言葉で言い換えたりして児童の理解を助ける、② 一方的に聞かせるのではなく、絵やあらすじについて児童とやり取りをしたり、間を取るなどをしながら読む、③ 一通り読み聞かせた後に、注目させたい点を示し、もう一度読み聞かせをする（文部科学省，2017b）、などがある。絵本を原文のまま理解できることは望ましいが、児童の理解可能な英語レベルで絵本を選ぼうとすると内容が幼くなり、発達段階に合った教育的テーマを持たせるのが難しくなってしまう恐れもある。絵本を選ぶ際には、目的に応じて英語レベルと内容のバランスを検討し、読み聞かせの際には、ジェスチャーや表情、児童とのやり取りを内容理解のための手がかりとして十分に工夫した上で、必要に応じて児童のレベルに合わせて英語を調整しなければならない。さらに、情緒性や社会性の育成を主眼として活用する場合は、「大切に身近な問題を考えるきっかけを与える」（エリス&ブルータス，2008）という絵本の利点を生かし、読むだけで終了せず、絵本のテーマについて児童自身に置き換えて考えてみたりするなどの機会を設けることが好ましい。

### 3. 本論の目的

本論の目的は、国立教育政策研究所（2012）が示した ESD で重視する態度・能力（表 1）に通じるテーマを持つ絵本を選定し、語彙数と語彙レベルを確認したうえで活用例と関連する学習単元例を示し、小学校外国語教育に ESD の視点を取り入れるための工夫として英語絵本の活用を提案することである。

## 4. ESD の視点を取り入れることを目的とした英語絵本の活用

### 4.1 英語絵本の選定

本論では、絵本選定の条件として、日本語でも翻訳されているものに限定した。日本語に翻訳された絵本には、興味を持った児童がいつでも日本語で内容を確認できる、教員が指導前に絵本の持つテーマについて考えを深め、読み聞かせのための工夫や読後の活動について思案しやすいといった利点が考えられる。また、Caldecott 賞（アメリカの年間最優秀絵本賞）受賞作やベストセラーなど、幅広く受け入れられている絵本を優先的に選んだ。選定した絵本は表 2 に示す通りである。

表 2. ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度と選定した英語絵本例

能力・態度	英語絵本
① 批判的に考える力	<i>Mary Wears What She Wants</i> (Keith Negley 著) 『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』(光村教育図書)
② 未来像を予測して計画を立てる力	<i>Christopher Nibble in a Tale of Dandelion Derring-do!</i> (Charlotte Middleton 著) 『タンポポたいへん!』(鈴木出版)
③ 多面的・総合的に考える力	◎ <i>They All Saw a Cat</i> (Brendan Wenzel 著) 『ねこってこんなふう?』(講談社)
④ コミュニケーションを行う力	◎ <i>Yo! Yes?</i> (Chris Raschka 著) 『やあ、ともだち!』(偕成社)
⑤ 他者と協力する態度	◎ <i>Stone Soup</i> (Marcia Brown 著) 『せかいいちおいしいスープ』(岩波書店)
⑥ つながりを尊重する態度	◎ <i>Joseph Had a Little Overcoat</i> (Simms Taback 著) 『ヨセフのだいじなコート』(フレール館)
⑦ 進んで参加する態度	○ <i>Library Lion</i> (Michelle Knudsen 著) 『としょかんライオン』(岩崎書店)

\*◎印: Caldecott 賞受賞作 ○: A New York Times Bestseller

#### 4.2 選定した英語絵本の語彙数と語彙レベル

選定した7冊の絵本の英語レベルを検討するために、英文語彙難易度解析プログラム Word Level Checker (Someya, 2006; [http://someya-net.com/wlc/index\\_J.html](http://someya-net.com/wlc/index_J.html)) を用いて語彙数と語彙レベルを確認した。使用した語彙リストは WLC Ver. 02 (染谷, 1998) である。結果を表3に示す。

絵本の長さについては、松本 (2017) の選定基準である見開き 16 ページ程度、三宅ら (2011) の指標である総語彙数約 490 語以内、異なり語数 155 語以内と比較すると、*Stone Soup* と *Library Lion* はページ数と総語彙数のいずれも基準を超えており、極めて長い絵本であることが分かる。

語彙レベルをみると、どの絵本も使用語彙の 75% 程度は 1,000 語レベル (Level 1) に属し、2,000 語レベル (Level 2) まで上げると、80.6%~89.2% の語彙が含まれる。平均語彙レベルが最も高かったのは、*Joseph Had a Little Overcoat* の 2.5 であった。この語彙リストでは固有名詞 (人名・地名

表 3. 選定した絵本の語彙数と語彙レベル

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ページ数 (見開き)	18	12	17	15	21	15	20
総語彙数	337	407	201	34	1081	182	1378
異なり語数	152	177	37	19	305	61	307
1,000 語レベル (%)	80.4	76.5	75.7	82.4	74.3	75.8	74.8
2,000 語レベル (%)	7.6	5.6	13.5	0.0	10.4	4.8	7.0
1,000 語 + 2,000 語 (%)	88.0	82.1	89.2	82.4	84.7	80.6	81.8
平均語彙レベル	1.6	1.9	2.2	1.5	1.8	2.5	2.0

\*① *Mary Wears What She Wants*, ② *Christopher Nibble*, ③ *They all Saw a Cat*, ④ *Yo! Yes?*  
⑤ *Soup Stone*, ⑥ *Joseph Had a Little Overcoat*, ⑦ *Library Lion*

など)はLevel 5に指定されており、Josephという登場人物名が繰り返し出現することや、overcoatやnecktieといった語彙が高レベル(17,000語レベル)に属していることから、平均語彙レベルが高くなっている。しかし、これ以外の絵本は1.5~2.2の範囲内であり、全体として1,000~2,000語レベルに収まっていると言える。

これらの結果から、*Stone Soup*と*Library Lion*を除く5冊の絵本の長さや語彙レベルは概ね小学校中学年から高学年を対象に適しており、原文に近い形で読み聞かせが可能なものだと考えられる。一方、*Stone Soup*と*Library Lion*の2冊の絵本は総語彙数も異なり語数も基準を大きく超えていることから、読み聞かせの際には、要点を捉えて短くしたり、なるべく同じ語彙や表現を使うなどの調整が必要である。また、1回で読み聞かせるのではなく、例えば*Stone Soup*の場合なら、空腹の3人の兵士が村で食べものを分けて欲しいと尋ね歩くがどの家に行っても断られてしまう前半部分と、*Stone Soup*の珍しさに村人が隠していた食べ物を持ち寄り美味しいスープが出来上がる後半部分に分けるなど、2回に分けて読むことも検討したい。

#### 4.3 選定した絵本の概要と活用例および関連する学習単元例

学習単元は、*Let's Try! 1, Let's Try! 2*(文部科学省教材：中学年用)、*New Horizon Elementary English Course 5, 6*(東京書籍：高学年用)から選択する。

##### ①批判的に考える力：『*Mary Wears What She Wants*』(Keith Negley 著)

###### 【概要と活用例】

世界で最初にズボンをはいた女の子として知られるメアリー・E・ウォーカーの物語。150年前、女の子はドレスを着るものだと誰もが信じていた時代に、メアリーは動きやすく快適なズボンをはいて町に出かけ、皆から非難され大騒ぎになってしまう。翌日、迷いながらも信念を曲げずにズボンをはいて学校に行くと、そこにはズボンをはいた沢山の女の子がいたという話である。メアリーのお父さんの言葉どおり、当たり前だと思われていることを変えるには勇気がある。だが、当たり前だからと何も考えずに全てを受け入れてしまったら何の発展もない。この絵本を通して、児童と一緒に「当たり前」をテーマに、「本当にそうだろうか?」「正しい判断なのだろうか?」と批判的に物事を考えることができる。また、メアリー・E・ウォーカーは、当時としては珍しい女性医師となった。後にはアメリカ初の女性軍医となり、名誉勲章も授与されている。「初めて〇〇した人」について調べ学習をしてもよいだろう。

###### 【関連する学習単元例】・New Horizon Elementary 5, Unit 8: Who is your hero? (5年生)

憧れの人について得意なことや性格などの理由とともに紹介する単元である。メアリーは絵本の中でも当たり前だと思われていたことを変える勇気ある女の子だが、実生活でも自分の信念に正直に生きた女性である。メアリーの生き方を通して、heroの資質について考えることができる。

②未来を予想して計画を立てる力：『*Christopher Nibble in a Tale of Dandelion Derringo!*』（Charlotte Middleton 著）

【概要と活用例】

モルモットたちは皆タンポポの葉っぱが大好き。毎日食べ続けた結果、村からタンポポが無くなってしまふ。そんな時、モルモットのクリストファーは最後の一本となったタンポポを見つける。食べたくなくなる気持ちを抑え、タンポポについて調べ、育てることにした。クリストファーがようやく育ったタンポポを持って丘へ登り、種を思いっきり吹き飛ばすと、村には再びたくさんのタンポポが咲いたという話である。この絵本を通して、物には限りがあることに気づき、「無くなってしまったら、どのように困るのか?」「無くならないようにするためには、どのように行動すべきなのだろうか?」と考えることができる。モルモットの生態や、絶滅危惧種の動物とその理由について調べ、動物を救うために自分たちのできることを考えてみてもよいだろう。

【関連する学習単元例】・New Horizon Elementary 6, Unit 5: We all live on the Earth (6年生)

生き物の生態やつながりを考え、地球の生き物について伝え合う単元である。タンポポが無くなると困ってしまうモルモット。モルモットがいなくなってしまうと困るのはどんな動物だろうか?食物連鎖について考えることができるであろう。

③多面的・総合的に考える力：『*They All Saw a Cat*』（Brendan Wenzel 著）

【概要と活用例】

子ども、犬、キツネ、金魚、ネズミ、ハチなど全12種類の生き物から見た一匹の猫を、短い英文と迫力のある絵で表現している絵本である。子どもから見た猫は上目づかいで可愛らしく、金魚から見た猫は金魚鉢越しにぼやけて大きく、ネズミから見た猫は歯や爪が鋭くまるで怖い鬼のように見える。生き物の身体的特徴、猫との関係性や距離感などによって、同じ猫なのに見え方が全く異なっており、どうしてこんなふうに見えるのか児童と一緒に考えながら、状況や立場によって同じものでも様々な見方や考え方があることに気づくことができる。読後の活動として、「イマジネーション・ギャップ」ゲームが考えられる。例えば、「春」から連想するものを3つ挙げ、クラスメイトやALTの先生が連想したものと比べてみる。連想するものは人によって様々であることに気づくだろう。連想した理由を尋ねてみると面白い発見ができる。

【関連する学習単元例】・New Horizon Elementary 6, Unit 4: Summer Vacation (6年生)

夏休みの思い出について伝え合う単元で、言語材料に *enjoyed, went to, ate, saw* などの過去形を扱っている。過去形の *saw* が何度も繰り返されるこの絵本とは、言語面で関連性がある。

④コミュニケーションを行う力：『*Yo! Yes?*』（Chris Raschka 著）

【概要と活用例】

陽気な黒人の男の子と内気な白人の男の子が路上で出会い、短いやりとりを通して友達になる

話である。二人の男の子の表情や動作から気持ちや性格が十分に伝わってくる。この絵本を通して、言葉にしなくても表情やしぐさから気持ちが汲みとれることや、たった一言で友達ができたり、気持ちが変わること気づくことができるだろう。読後には「ジェスチャー・ゲーム」をして、クラスメイトの気持ちを動作や表情から推測し、悲しい・寂しい・困っているような友だちがいたら、どんな一言をかけると良いのか皆で考えてみてもよいだろう。

【関連する学習単元例】・Let's Try! 1, Unit 2: How are you? (3年生)

ジェスチャーを工夫して気持ちや状態を尋ねたり答えたりする単元である。この絵本に登場する二人の男の子の気持ちを考えたり、友だちと一緒にいるとどんな気持ちになるか想像しながら、友だちの大切さを改めて考えることができる。

⑤他者と協力する態度：『*Stone Soup*』（Marcia Brown 著）

【概要と活用例】

空腹で疲れきった3人の兵士が食べ物と寝場所を求めて村を尋ね歩くが、村人は皆あれこれ理由をつけて断ってしまう。そこで兵士たちは、「石のスープ」を作ると言い、物珍しさから集まった村人に「塩と胡椒があれば」「人参があれば」と要求をし始め、村人はそのくらいなら協力できると食材を差し出す。持ち寄った食材で見事なスープが出来上がり、皆で美味しく楽しく食べる話である。この絵本を通して、「協力すること」について考えることができる。一人ではできないことでも皆で協力することで成し得ることがあること、また、皆で分かち合うことがもたらす良さにも気づかせたい。

【関連する学習単元例】・Let's Try! 2, Unit 7: What do you want? (4年生)

食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しみ、オリジナルメニューを紹介する単元である。この絵本には食材や要求をする際の表現が出現しているところから、言語材料において関連性が高い。Stone Soupに加えたい食材を考えることもできる。

⑥つながりを尊重する態度：『*Joseph Had a Little Overcoat*』（Simms Taback 著）

【概要と活用例】

ヨセフは古くなって破れてしまった大事なコートジャケットに仕立て直して使い続ける。ジャケットが古くなるとベストへ、ベストが古くなるとマフラーへ、マフラーが古くなるとネクタイへ、とどんどん作り直して使い続ける。コートは最後にボタンとなり、無くなってしまうが、ヨセフはそこから物語を作ったという話である。様変わりをしたコートを身に付け、お祭りに行ったりダンスをしたり歌を歌ったりしたことが描かれており、そうした思い出をもとに物語が作られたことが想像できる。この絵本を通して、「物を捨てずに生かすこと」や「物はなくなっても残る思い出」について考えることができる。読後には、児童自身が長い間大事にしているものを紹介する Show & Tell 活動が可能である。「物と人」、「物と思い出」、「物から物へ」それぞれの



つながりを考え、大事にしたい。

【関連する学習単元例】・New Horizon Elementary 5, Unit 2: When is your birthday? (5年生)

誕生日や誕生日に欲しいものについてのやり取りをする単元である。今までもらった誕生日プレゼントの中で思い出に残っているものは何か、そのプレゼントは今、どのように使われているのかなどを尋ねてみると、この絵本との関連性が生まれる。

⑦進んで参加する態度：『*Library Lion*』（Michelle Knudsen 著）

【概要と活用例】

ライオンが図書館にやって来た。ライオンの来るべき場所ではないと否定的な館員のマクビーと、きまりを守れるのなら来て構わないと受け入れる館長のメリウエザー。ライオンは毎日きまりを守って通っていたが、メリウエザーが怪我をしてしまい、マクビーの助けを求めるためにやむなく大声で吠えてしまう。ライオンは、その日から図書館に姿を見せなくなった。「ちゃんとした理由があれば、きまりを守れなくてもいい」という新しいきまりをマクビーから聞いたライオンは、再び図書館へ通い皆に歓迎される話である。この絵本をきっかけに、「きまりを守る」「きまりにも例外がある」ことについて考えることができる。「きまりはどうしてあるのか」「誰のためにあるのか」といった根本的な意義を理解することを通して、「皆のために」といった公共的な視点で考えたり、図書館で積極的にお手伝いをしていたライオンのように自分のできることを率先して行動する姿勢を促したい。

【関連する学習単元例】・New Horizon Elementary 5, Unit 5: Where is the post office? (5年生)

オリジナルタウンを作って道案内をする単元である。言語材料として「町にある建物」について扱い、この絵本の舞台である library も含まれている。オリジナルタウンを作る際に、その町の「オリジナル・ルール」を1つだけ考え、理由とともに紹介するのも面白い。

## 5. 考 察

本論では、ESDで重視する7つの能力・態度に通じるテーマを持つ絵本を各1冊ずつ選定し、その語彙数と語彙レベルを検討したうえで、活用例および関連する学習単元例を提案した。絵本の登場人物の立場にたって考えたり共感したりしながら、テーマについて考えるきっかけとなることを第一義として選定したため、読み聞かせの際には絵本の長さや語彙レベルに調整が必要なものもあるが、比較的容易に普段の学習に加えることができる。また、関連する学習単元例は各1つずつ提示したが、学習内容の捉え方によって取り入れることが可能となる単元は複数あるだろう。さらに、今回提案した絵本以外にも、ESDの視点を取り入れることのできる絵本は多くある。たった一度の指導で児童の意識や行動に働きかけることは難しく、いろいろな場面上手くとらえて身近で大切な問題について児童の考える機会を増やすことが望ましい。

グローバル化が進む社会における英語教育は、英語力のみならず、地球を取り巻く様々な課題を意識し、主体的に捉え、その解決や改善に向けて行動する姿勢、すなわちグローバル・シティズンシップも同時に育むという意識が必要だという（工藤，2022）。また、馬場ら（2018）は、第二言語習得の臨界期に関する研究結果を踏まえ、英語力の獲得のみを目指すのであれば必ずしも早い時期から英語を学び始める必要はないとし、幼少期の豊かな感受性を生かし、全人的なよりよく「生きる力」の獲得につながることを意識しながら英語教育を進める必要があると述べている。英語絵本は言語の習得を促すことに加えて、文学作品として子どもたちの感情に働きかけ、他者とのつながりや共感力を育てるという利点を兼ね備えており、児童の社会性や情緒性を育むことにも寄与するものである。このことから、これからの小学校外国語教育において英語絵本を活用する可能性はさらに広がるものと考えられる。だが、本論では英語絵本の活用について提案したに過ぎず、教育現場での実践をととして児童の学びの様子や教員の意識等について検証することが研究課題として残されている。

## 参 考 文 献

- アレン玉井光江（2018）.『小学校英語の教育法』第5刷 東京：大修館書店.
- エリス，G.・ブルースター，J.（2008）.『先生，英語のお話を聞かせて！』（松香洋子 監訳）東京：玉川大学出版部.
- 河合隼雄・松居直・柳田邦男（2021）.『絵本の力』第20刷 東京：岩波書店.
- 工藤泰三（2022）.「グローバル・シティズンシップを育み英語教育—「地球市民」を育てよう」『英語教育』第71(4)，18-19.
- 桑原敏典・横川和成・高橋純一（2021）.「小中学校社会科・総合的な学習の時間におけるSDGsを学ぶ授業づくりの方法—環境問題を取り上げたESDの単元開発を事例として—」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第176号，47-58.
- 国立教育政策研究所（2012）.「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究（最終報告書）」[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd\\_saishuu.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf)（2022.7.20 閲覧）
- スミス，R.H.（2016）.「第8章 絵本」石井桃子・瀬田貞二・渡辺茂男 訳『児童文学論』（pp. 219-254）. 東京：岩波書店.
- スプレンガー・M.（2022）.『感情と社会性を育む学び（SEL）子どもの、今と将来が変わる』（大内朋子・吉田新一郎 訳）東京：新平論.
- 染谷泰正（1998）.「AWKによる語彙レベル分布計測プログラム Word Level Checker（Ver. 1.5）簡易マニュアル」[http://www.someya-net.com/kamakuranet/wlc/wlc\\_manual.html](http://www.someya-net.com/kamakuranet/wlc/wlc_manual.html)（2021.10.15 閲覧）
- Someya, Y.（2006）. Word Level Checker（WLC）. [http://someya-net.com/wlc/index\\_J.htm](http://someya-net.com/wlc/index_J.htm)
- 田中治彦・奈須正裕・藤原孝章（2019）.『SDGsカリキュラムの創造—ESDから広がる持続可能な未来』東京：学文社.
- 永田佳之（2021）.「第2章2節 日本のESDに関する批判的レビュー」北村友人・佐藤真久・佐藤学（編著）『SDGs時代の教育 すべての人に質の高い学びの機会を』第5刷（pp. 35-44）東京：学文社.
- 日本ユネスコ国内委員会（2021）.「ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き」[https://www.mext.go.jp/unesco/004/\\_icsFiles/afieldfile/2018/07/05/1405507\\_01\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/unesco/004/_icsFiles/afieldfile/2018/07/05/1405507_01_2.pdf)（2022.7.20 閲覧）

- 馬場今日子・新多丁 (2018). 『はじめての第二言語習得論講義 英語学習への複眼的アプローチ』  
東京：大修館書店。
- 樋口忠彦他 (編) (2019). 『小学校英語内容論入門』 東京：研究社。
- 松本由美 (2017). 「小学校英語教育における教材用英語絵本選定基準の試案—絵本リスト作成に向けて—」『玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要』 第 10 号, 7-15.
- 三宅美鈴・竹本敬子・竹田直美 (2011). 「読み聞かせ」絵本選定に関する実証的研究—小学校 5・6 年生の読み聞かせに適した絵本とは—『JASTEC 研究紀要』 第 30 号, 1-17.
- 文部科学省 (2017a). 「小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)」 (2022.3.19 閲覧)  
[https://www.mext.go.jp/content/1413522\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf) (2022.3.19 閲覧)
- 文部科学省 (2017b). 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm) (2022.6.10 閲覧)
- ユネスコ・アジア文化センター (2020). 「変容につながる 16 のアプローチ SDGs を活かした学校教員の取組」[https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/08/ACCU\\_text\\_SDGs.pdf](https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/08/ACCU_text_SDGs.pdf) (2022.7.25 閲覧)

○選択した絵本

- ・『*Mary Wears What She Wants*』 Keith Negley 著, Harper Collins Publishers.  
『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』 石井陸美訳, 光村教育図書。
- ・『*Christopher Nibble in a Tale of Dandelion Derring-do!*』 Charlotte Middleton 著, Oxford University Press.  
『タンポポたいへん!』 アーサー・ビナード訳, 鈴木出版。
- ・『*They All Saw a Cat*』 Brendan Wenzel 著, Chronicle Books LLC.  
『ねこってこんなふう?』 石津ちひろ訳, 講談社。
- ・『*Yo! Yes?*』 Chris Raschka 著, Scholastic.  
『やあ, ともだち!』 泉山真奈美訳, 偕成社。
- ・『*Stone Soup*』 Marcia Brown 著, Aladdin Paperbacks.  
『せかいいちおいしいスープ』 こみやゆう訳, 岩波書店。
- ・『*Joseph Had a Little Overcoat*』 Simms Taback 著, Viking: Penguin books for young readers.  
『ヨセフのだいじなコート』 木坂涼訳, フレーベル館。
- ・『*Library Lion*』 Michelle Knudsen 著, Candlewick Press.  
『としよかんライオン』 福本友美子訳, 岩崎書店。